

関宿城跡(東葛飾郡関宿町)

築城年代:長禄元年(1457年)、築城者:築田成助

ここは利根川と江戸川が合分流する地点のスーパー堤防/大きな説明坂が立っている



堤防を少し進むと南方向の堤防下に一寸した木々に囲まれた平場が見える



そこを南西側から北東方向に見たところ/白井説明坂が見える



その説明板と傍に立つ石碑





房総の魅力500選

千葉県

「房総の魅力500選」は、昭和58年に千葉県
の人口が500万人に達したのを記念し、
魅力あるふるさとづくりの一環として昭和
63年1月に選定されたものです。

関宿城跡

関宿地区は、関東平野の中央に位置していることから、古来より関東を制しようとする豪族や大名の間で争いがくりひろげられました。特に、江戸時代に入ると江戸からここまで14里(56キロメートル)の距離にあるため、幕府にとっては、扇の要にも似た重要な外郭都市で、譜代大名が常に置かれていました。

江戸時代末期、久世藩の頃、関宿は宿場町として最も繁栄しました。

こちらにも立派な説明坂が立っている



関宿城の歴史

関宿城の歴史はおよそ長祿元年（一四五七年）榊田満助の手によって、茨城県総和町水海より現在の地に築城されたのが始まりと云われている。当時は城といっても平屋の建物が配置されているだけであつた。

榊田氏の支配は満助から持助まで六代続いていたが、やがて関宿も戦国の動乱に巻き込まれ、北条氏との激しい戦いののちに、ついに北条氏の手に落ちてしまふ。その後すぐ豊臣・徳川連合軍の関東攻めにあい、北条が守る関宿城は連合軍の手に落ち、天正一八年（一五九〇年）徳川家康関東入封の折り、家康の実弟である松平康元が関宿城に二万石にて入城する。以後城主は、松平、小笠原、北条、牧野、板倉、久世、牧野久世と城主が交代したが宝永二年（一七〇五年）久世重之以後明治に至るまで関宿は代々久世氏の治める領地となつた。

明治二年（一八六九年）藩籍奉還後、関宿城の所管は明治政府の手に移り、同五年にはその所管が政府から陸軍省へ移され廃城と決定され、同八年また城の所管が陸軍省から再び政府に移動したのをきっかけに、親藩・譜代七家二三人の大名を輩出した関宿城は同年末までに全て破却されるに至つた。

現在城跡として残っているのは全体の一部で、約三分の二は、明治以後何回となく繰り返されてきた河川改修により、堤防の下に埋もれてしまつているが、当時の城の大きさは本丸、二の丸、三の丸部分だけでも約六〇〇〇坪あつたといわれている。

この平場が本丸のエリアの一部として現在僅かに残っている/正面遠方に関宿城博物館として建設された模擬御三階櫓が見える



平場の先端から見たところ/左手に堤防が続いている



アップで見たところ



振り返って平場を見たところ



これは本丸跡から更に南方向を見たところ/少し先に左手に廻り込む感じの高まりがある/右手が堤防



この高まりがそれ/この前方付近は二の丸のエリアか



そしてこう見ると正面が左手の本丸を取り囲む堀跡の雰囲気を残しているのが見て取れる



こんな感じ



堀跡から本丸跡を見たところ



本丸の墨壁には横矢がかけられている



こんな感じ



その先は左手に廻り込んでいる



これは廻り込んでから振り返って本丸の墨壁を見たところ



右手の土手上から見たところ/この前方の一角が三の丸のエリアか



そこで左手を見たところ/模擬御三階櫓が見える



さて、ここは模擬御三階櫓の関宿城博物館入口



いろいろな説明板が立っていた



ここにも説明坂が立っている



川のふもとに高札場

関宿城下と歩こう総合高札案内板

関宿城は利根川・江戸川・逆川に挟まれ、城のまわりには土塁・築地塀と堀を巡らした堅牢な守りの平城でした。本丸を取り囲む城内には、二ノ丸や三ノ丸、発端曲輪、天神曲輪のほか、その南側に家臣団の屋敷がありました。江戸幕府は、河川交通の要衝のこの地に関所を設置し、関宿藩にその管理を任せました。また、野田方面から北上する日光東照宮への街道沿いに展開し、そこには寺院や神社が密集していました。関宿城博物館では、城内外の八か所に高札案内板を設置し、散策しながら、気軽に歴史や文化に触れ、学びの機会を提供しています。

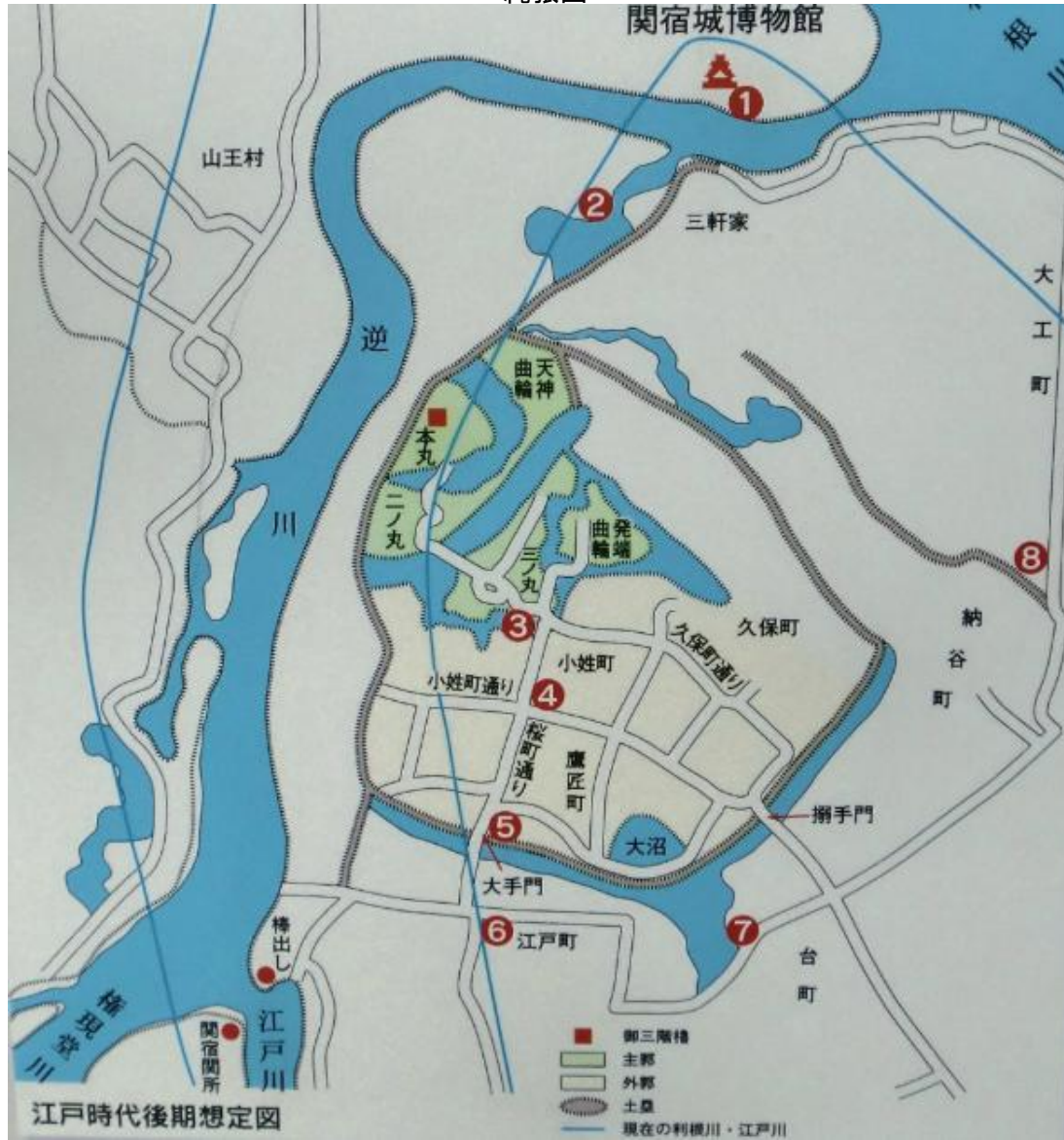


関宿城下の高札案内板

- ① 総合高札案内板
- ② 川原を渡る(遺構)
- ③ 関宿城の曲輪
- ④ 武家屋敷の区割りとお堀跡
- ⑤ 関宿城大手門と城を囲む土塁・堀
- ⑥ 関宿関所と検出
- ⑦ 松林陣屋と陣場跡
- ⑧ 日光東照宮と利根川舟着

千葉県土浦市関宿城博物館

縄張図





博物館へはここから入って行く



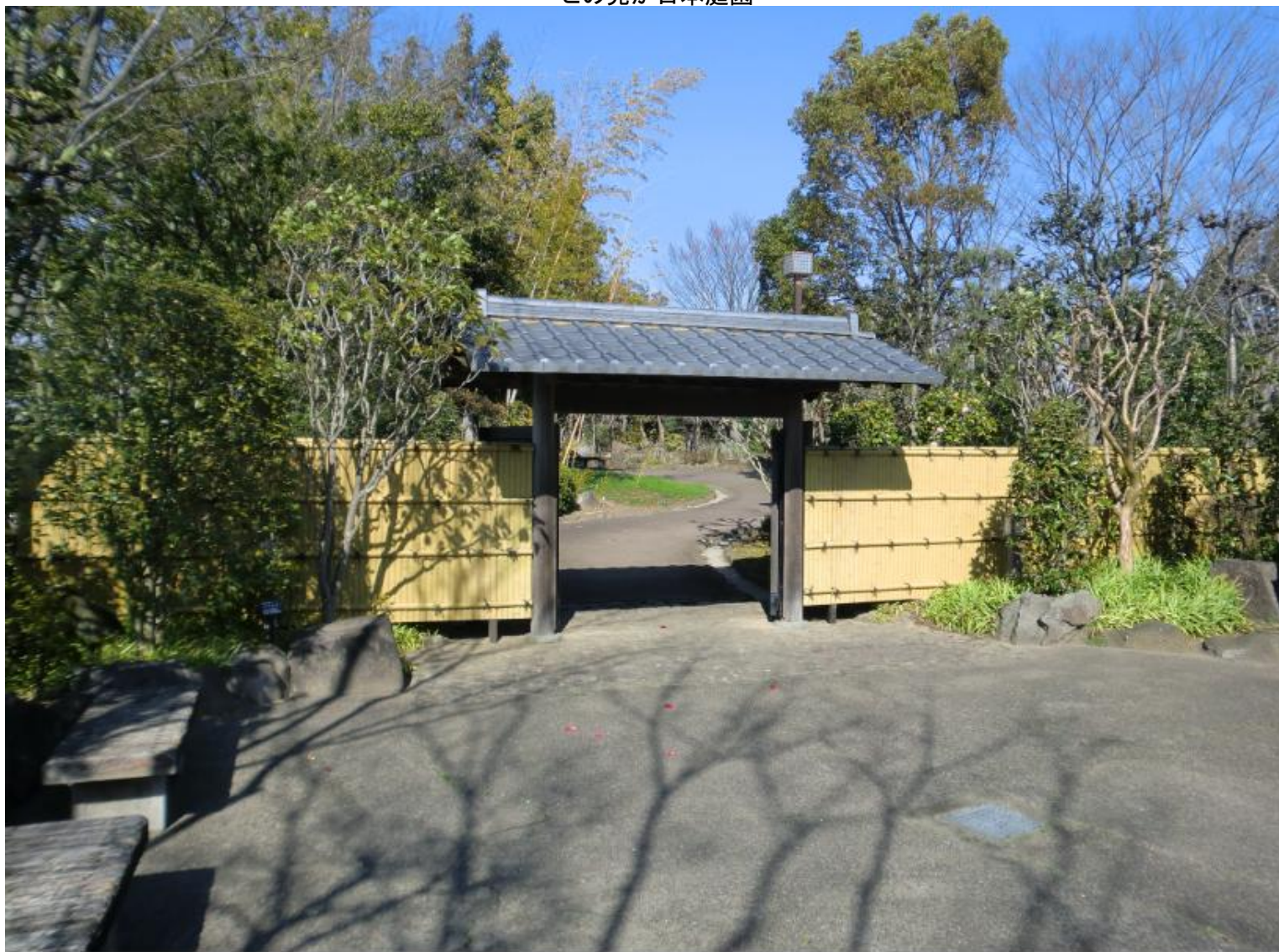
関宿藩の歴史よりも、河川やそれに関わる産業についての展示の方が充実している



博物館へ入る前に、裏手にある日本庭園に廻ってみる



この先が日本庭園



そこから南東方向に模擬御三階櫓を見たところ



説明坂が立っていた



(江戸城富士見櫓の写真)

関宿城（天守閣）について

近世の関宿藩は、江戸城の外城として重要視され、松平康元（徳川家康異父弟）が1590年（天正18年）に2万石で入城以来、小笠原氏、北条氏、牧野氏、板倉氏、久世氏と代々譜代大名が配置されました。

関宿城の天守閣については、古記録に「寛文十一年辛亥世喜宿…公儀御願相濟富士見御櫓之形ヲ以建直ル…」とあり、江戸城の富士見櫓を模して1671年（寛文11年）に再建され、1874年（明治7年）頃取り壊されたそうです。

本館の天守閣は、この記録等に基づき現在の皇居内にある富士見櫓を参考に再現したものです。

関宿城本丸跡は、現在地から約500mほど南に下った場所にわずかに残るのみで、明治以降の江戸川改修工事で、大部分が河川の一部となっています。

日本庭園から南方向に見たところ



北東側から南西方向に見たところ



南東側から北西方向に見たところ



同じく少し退いて見たところ



さて、これは博物館に入って模擬御三階櫓の最上階に登ったところ



そこから南方向を見たところ/正面前方の一寸した木々の所が先程見た本丸跡



その本丸跡をアップで見たところ



博物館では丁度関宿城についての「コーナー展」が開催されていた

コーナー展

よみがえる関宿城



3月14日(火)~4月16日(日)

◀ こちらからどうぞ

第
十三
の
【期日】
【時間】
【場所】
【定員】
【参加】

これは西側を流れる江戸川の対岸から模擬御三階櫓を見たところ



アップで見たところ



さて、ここは博物館の東側に位置する「関宿城鬼門除け稲荷」





鳥居の脇に標柱が立っている



この中に稲荷大明神が祭られている





「関宿城鬼門除け稲荷」の説明坂

寛文九年八月廿一日
 関宿城鬼門除け稲荷
 城主となつた時城内に建立
 さ来た大い松えられて
 関宿城の鬼門にあたる
 うに建立されたまふ鬼門除
 稲荷といふ稲荷社多く
 関宿地区には稲荷社多く
 ありますかこは稲荷社が
 内に祀まつたか稲荷社が
 に分社がでたか稲荷社が
 ますのはかお城七関係
 持つのはかお城七関係
 ません八月廿一日
 昭和四年八月廿一日
 の龍巻がたこりたの根が
 飛ひ松の入り樹が根が
 なりたの入り樹が根が
 難を感していすは
 関宿町族育委員会

そこから見た模擬御三階櫓



参考ホームページ

<http://vogokun.my.coocan.jp/sekiyado.htm>

<http://umoretakojo.jp/Shiro/Kantou/Chiba/Sekiyado/>

<http://srtutsu.ninja-x.jp/shiro777.html>

<http://www.asahi-net.or.jp/~cn3h-kkc/shiro/seki.htm>

<http://www.geocities.jp/hoshinoufo20/sekiyadojou.html>

<http://www.hb.pei.jp/shiro/shimousa/sekiyado-jyo/>

<https://ameblo.jp/castle-manabu/entry-11536169463.html>

